

2012年PETボトル・プラスチック容器包装リサイクル 『第1回市民・自治体・事業者の意見交換会 in こうべ』報告

神戸市 植松課長 取組報告風景

開催概要：全体会では自治体・市民・事業者の各取組の報告を行い、相互理解を深め、分科会では、リサイクル・3Rに関する疑問や課題を出し合い、より良いリサイクル・3Rのあり方や容器包装の環境配慮設計について討論しました。



日時：2012年7月13日

開催場所：神戸市勤労会館

参加者：市民関係者 27名
 自治体関係者 16名 事業者 31名 計 74名

主催者：PETボトルリサイクル推進協議会
 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

協力：神戸市、神戸市消費者協会、
 NPO法人ごみじやぱん

NPO 法人ごみじやぱん 小島事務局長 報告風景



当日のスケジュール：

| 時間 | 内容 |
|----------------------------|---|
| 12:30~12:40 | 主催者挨拶 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 会長 小林三喜雄 |
| 12:40~13:00 | 自治体の取組報告 -神戸市の容器包装の分別収集について- 神戸市環境局 資源循環部 減量リサイクル推進課長 植松賢治氏 |
| 13:00~13:15 | 市民の取組報告 -減装ショッピングの活動紹介- NPO法人ごみじやぱん事務局長 小島理紗氏 |
| 13:15~13:35 13:35~13:50 | 事業者の取組報告 -リサイクルと環境配慮設計に関する課題- PETボトルリサイクル推進協議会 専務理事 近藤方人 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保直紀 |
| 13:50~14:00 | ***** 休憩・移動 ***** |
| 14:00~15:50 | 分科会に分かれて話し合い 第一分科会 (1~3グループ)； 『リサイクル・3R』 第二分科会 (1~3グループ)； 『容器包装の環境配慮設計』 PETボトルやプラスチック製容器包装； 何が一番の関心事で疑問に思うことは何か？ |
| 15:50~16:00 | ***** 休憩・移動 ***** |
| 16:00~16:40 | グループ報告 |
| 16:45 | 閉会 |

第一分科会 1 グループ：『リサイクル・3R』

(必ずしも発言順、発言どおりではありません)



1. 分別排出ルールの浸透は重要 [市民・自治体]

- ・ 分別のルールがコロコロ変わるのは困る。身に付かないので誤排出につながる。[市民]
- ・ 本日配布の神戸市のパンフレットは分かりやすく、市民の理解も進んでいると思う。[自治体]
- ・ 明石市、尼崎市も予算が許せば作成、配布したい。[自治体]
- ・ 燃えないゴミの中のプラゴミが3分の2に減った。[自治体]
- ・ PET ボトルでは、容リ協品質ランクを上げると売却収入が増えるので、市民向けキャンペーン（例：キャップを外そう）でのルール浸透を図っている。[自治体]

2. 製品プラを容器包装プラと区別する取り扱いがわかりにくい [市民・自治体]

- ・ 本日の神戸市発表や配布資料に「容器包装プラ」と「それ以外のプラ」について具体例も示されているが、同じプラなのになぜ区別が必要なのか、製品プラの現在の処理法は環境に優しいのか、という思いがある。[市民]
- ・ 製品プラを市民は手間ひまかけて分別排出し、自治体は税金をかけて分別収集して焼却処分する、ということでは説明責任を果たせないが、製品プラにリサイクル費用が拠出される仕組み・法制度はないので、コストはかけられない。[自治体]
- ・ 回収袋も製品プラ扱となり、ベール品質上は異物扱いとされるので何とかしてほしい。容リ法の枠内に入れるべき。 [自治体]
- ・ 地域ごとに分別ルールも収集後の処理方法も異なることは市民を混乱させるし、きちんと分別する意欲を阻害する。[市民]
- ・ 高齢になるとルールどおりできない人もいる。できない人は燃えるゴミにしている。[市民]

3. 適切なリサイクル手法とは [自治体]

- ・ リサイクル手法は自治体が実情に合わせて選択できるようにすべき。例えば、北海道まで運搬してリサイクルするのと、市内でゴミ発電するのとどちらがよいか等、市民にも説明できる。
- ・ ゴミ発電は許容されるべきだが、安易にサーマルリカバリー・焼却が選択されることがあってはならない。

4. リサイクルの行方 [市民・自治体]

- ・ 自分たちの分別排出した資源ゴミがどのようにリサイクルされているのを知りたい。[市民]
- ・ 前項のリサイクル手法選択や後述のコストと合せて、市民への説明責任を果たしていくことが重要であり、いい加減なことではない。[自治体]

5. 過剰包装と減装・へらそう [市民・事業者]

- ・ 海外在住の子供のところに行くと日本は実に過剰包装と感じる。[市民]
- ・ 密封が保たれ品質に問題がなくても少し凹んでいるとクレームになる。消費者の意識を変えていくことも必要。[事業者]
- ・ 例えばコーヒーを外で飲むときには器にこだわる店もある。逆に、容器包装はTP0でもっと簡素にできるのではないか。[市民]
- ・ 日本では安全に加え安心が求められ、止めたいという思いもあるが過剰包装に見えることも必要。例えばびん口のシュリンクシール。[事業者]
- ・ 本日も紹介のあった「減装・へらそう」活動で、山崎パンの事例のように、減装を受け入れ市民の消費者行動が変わることが確かめられると進めやすい。[事業者]

- ・ 例えば鏡付きの化粧品は排出のときだけ外しやすく、ということが難しい。利便性と環境性という選択肢を消費者に選んでいただく、というのが今のやり方である。[事業者]
- ・ 減装・へらそうは一つの答えだと思う。[自治体]

6. 分別排出と分別収集～中間処理のコスト[市民・自治体]

- ・ 回収場所で分別指導に立ち会っているが、中間処理施設で再度分別作業をしているので、二度手間（手間≒コスト）感がある。[市民]
- ・ 確かに二重かもしれないが、その結果普通の市民の分別が良くなって容リ協のランクが上がり、高く売却できるようになった。[市民・自治体]
- ・ 有価物は集団回収しており、自治体にコスト負担をかけず自治会にも収入となる。ただし、量が少ない等の理由で取り組めない自治会もある。持ち去り事業者の存在は問題。[市民]

7. リターナブルについて [市民・事業者]

- ・ 選択肢をなくすべき。例えば使い捨ての紙パック製品はなくし、リターナブルびんだけにすべきという消費者意見もある。[事業者]
- ・ 環境の視点だけで商品選択しているわけではない。例えば、来客用に一升びんを使っても、普段は価格の安い紙パックを選択する。[市民]
- ・ CO2 で見たら、正解は一つではない。[自治体]
- ・ リターナブルびんの減少は社会変化によるもの。しかし適したところでは維持している。料飲店、宅配など、近距離で回転がよく、クローズドな市場。リターナブルであるなしを問わず、リデュースは進めている。[事業者]
- ・ 市民からリデュース・リユース推進のために、PET ボトルを水筒として活用すべきという声があるがどう答えたらよいか。[自治体]
- ・ PET ボトルはリユースを前提には設計していないため、水筒使用にともなって事故が起きても責任が取れない。使用後はリサイクルしてほしい。[事業者]

8. 表示／コミュニケーションについて

- ・ 3R 改善事例集は初めて見たが、比較指標がないので（商品選択の）役に立つとは思えない。[市民]
- ・ いろいろ表示に書いてあるが、どれだけ見ているか。そこにリサイクル費用を書いたとしても・・・、[市民]

以上

第一分科会 2 グループ：『リサイクル・3R』

総じて勉強会的な、リサイクルについてそれぞれの立場の理解を深める場となった。



1. 収集に関して

- ・ 容器プラ分別収集を全市実施の際に、カレンダー（3ヶ月間）が配布されたが、継続版を望んだが〇市が作ってくれない。

⇒〇市は、婦人会・自治会で作成してほしいと説明。（助成金あり）

- ・ ○市は「収集日程表」を作成している。

H19 年度から分別回収、H23 年度から各軒先で個別回収をしているので、指導しやすく分別の精度・品質が高い。（ただし費用対効果の観点から、すべての自治体には当てはまらない）

・◇市は、「我が家の収集日」を作成している。

種別を色分けしているほうが見やすいので参考にしたいと思います。

【質問①】高齢者の方は、(容器プラは)分別が大変だと思うので何か良い方法はないでしょうか。⇒指導しやすい各軒先個別回収が望ましい。

2. リサイクルの方法について

- ・ 単一素材でないものはどうするのか? ⇒複合素材の特性理解を深める。
- ・ 自治体として、回収・分別後に、どのようにリサイクルされるのかは、選択権が無い。

3. 包材設計について

【質問②】PET ボトルのキャップは、違う素材でないとだめ? PET ボトルのキャップ・ラベル取らないといけないのか? ⇒容器の密閉(シール)性を高めるために硬さの違う材質が必要。キャップ・ラベルはPET と違う素材で出来ているので分けて欲しい。

【質問③】PET のラベルが剥がし難い。⇒メーカーの宿題として持ち帰ります。

4. 容り法について

- ・ 本来自治体負担とされている費用を事業者へとの向きがある。その費用を可視化して欲しい。また、直営と委託(外注)の割合とその合理性を検証しているのか?
⇒結論出ず。

【質問④】市で回収分別したその他プラ資源を引き取り業者に渡すが、回収袋が返却されてしまう。回収袋はリサイクルできないのか?

⇒現状の容り法のルールではそうになってしまう。

(参考情報) レジ袋を削減する為に埼玉県のスーパでレジ袋の回収実験を行っている。

5. その他

- ・ 配布資料がすばらしい

以上

第一分科会 3 グループ：『リサイクル・3R』

1. 分別・識別表示について

[市民の方の意見]

- ・ マークの色を目立つようにしてほしい。
- ・ PETの胴巻きのフィルムを、点線の色を変えるなどして目立つようにしてほしい。
- ・ 市民が分別するための表示はプラか、プラでないかだけわかればよい。PPとかPEとかの材質を表示されているとかえってわかりにくくなって、分別しにくくなる。
- ・ 材質の表示は、質問(市民間での指導の時に)されても答えられないので、表示してほしい。
- ・ プラとして分別していいか分からなかったら、燃えるごみにだしている。
- ・ きちんと分別している人と、無関心層をどうしたらいいか、課題である。

[行政の方の意見]

- ・ 高齢者に分かりやすい表示をお願いしたい。



- ・ メーカーは、容器の素材を変更したら（例えばプラから紙に）、変更した事をもっと知らしめてほしい。プラとして排出されていることがある。
- ・ 神戸市のVTRでビンに「プラ」マークがついていて、分かりにくいという指摘がありました。
- ・ 一方で、キャップには表示スペースがなく表示できない。（or マークが小さくなる）という事情もあります。どのような表示方法がわかりやすいのでしょうか？
- ・ 内容物（食品残渣）が残ったままの容器がかなり排出されている。

2. 市民への広報について

[市民の方の意見]

- ・ 高齢者が多いところに住んでいるので、収集場所などに、ポスターを貼り付けてほしい。
- ・ ごみの分別の分からない人が多く、収集場所に残されることが多い。どのようにPRするか検討中である。

[行政の方の意見]

- ・ 神戸市では「分別する時はマークを確認してください」と広報している。
- ・ 神戸市はチラシ、説明会などで告知している。（2700回の説明会・11万人への地域説明会）が、まだ守られていない面もある。

[事業者の意見]

- ・ 市民の分別方法に関して、市町村が作成するチラシ費用などに関して、事業者としてサポートできる方法もあるので相談してほしい。

3. リサイクルについて

[市民の方の意見]

- ・ 何に、どのようにしてリサイクルされるのか、簡単なことを教えてほしい。
- ・ 回収されたものが、その後どう処理されているかの透明化が必要
- ・ 前半の説明会で、リサイクル手法が色々あることを知った。
- ・ 店頭でのリサイクル回収が身近で便利なおみ回収になってしまっている。（なかなか本来の趣旨が消費者に伝わらない）
- ・ リサイクル回収をもっとすすめやすくする、法整備ができないものか
- ・ 汚れている廃プラを出しても、発電の燃料として活用されることを聞いてから、安心してプラスチックを出せるようになった。」→サーマルリサイクル手法をもっと広報すべきではないか。

[行政の方の意見]

- ・ ずっと昔からマテリアルリサイクルがいいというイメージがあるのではないか。
- ・ 分別収集と選別等の中間処理の経費がかかりすぎる。市町村負担が増加）。
→行政としては一番大事な問題。分別と選別の違いをはっきりさせたい。
- ・ 神戸市は汚れたごみでもエネルギーになっている。

[事業者の意見]

- ・ PETのキャップをしたまま排出されると、空気が入っているので、つぶしにくくなる。
- ・ プラスチックをリサイクルし易い構造にすると、中身の賞味期限が短くなるかもしれません。中身とリサイクルのどちらを優先して考えるべきでしょうか？
→中身に決まっている[市民の方]

- ・ マーガリンや納豆などの汚れている容器は容リプラからはずしてほしい。
→納豆容器は、水で簡単に汚れが落ちる。
- ・ サーマルリサイクルがよければ、分別収集する必要はないのではないか。
- ・ 汚れたプラはリサイクルしにくい→ガス化の手法がある
- ・ ケミカルリサイクル手法にすれば、リサイクルできることを知してほしい。
- ・ リサイクルの適否とは別に、消費者は排出時になるべく食品残差などを除去して排出することで、クリーンな収集・運搬になるように努力する事が、重要である。
- ・ 汚れたプラはリサイクルしにくい→、必ずしもそうではない。マテリアルリサイクルでされるケースもある。また、ガス化などケミカルリサイクルなら問題ない。
- ・ 全て燃してしまえば手間はかからない。

4. まとめ

- ・ 市民は何らかの製品にリサイクルされているのだろう、と思って分別しているが、何にリサイクルされているか、行政も事業者も把握できずにいる。不透明な中で全体が動いているため、容リ法の理解や活動の活発化が不足しているのではないか。
- ・ 市町村が市民へ情報を出すためには、もっと事業者から市町村への情報発信が必要であり、それぞれの立場をより深く知る主体間の連携が重要課題であると感じた。

以上

第二分科会 1 グループ：『容器包装の環境配慮設計』

1. 「指定袋」について

- ・ 「指定袋」が、容リプラの対象外なのはおかしいのではないか？
- ・ 「指定袋」に空気を抜くための穴を開けてほしい（破裂防止）
→ ゴミ出し方法の問題ではないか？（穴は不要？）



2. 「プラマーク」の表示について

- ・ プラマークを高齢者にもわかりやすく大きく表示して欲しい。 ※共通配布意見
- ・ とくに、透明（エンボス加工）だと見えづらい。
- ・ しかし、無地製品にはなるべく印刷をしないようにしている。
（リサイクル時、インキは除去する必要があるため、無地のものにはインキを使用せず、別の構成材への表記やエンボスによる表記をしている）
- ・ プラマークを高齢者にもわかりやすく大きく表示して欲しい。 ※共通配布意見
- ・ エンボス加工の表示なら、大きくできるのではないか。
- ・ 大きく表示するには、表示場所の面積の問題もある。
- ・ 容器包装がわかりにくい人が多いので困ります。もう少しわかりやすくして欲しい。
※共通配布意見
- ・ 別の構成材に表示する場合、わかりやすさが必要。

3. 「環境配慮設計」と「使いやすさ」

- ・ PET ボトルの肉薄化によって、使用しづらく（開けづらく）なった製品がある。
- ・ 商品の大きさは選択できたほうが良い。（小型製品は使いやすいが、環境負荷は大きい）

(1) 贈答品と過剰包装について

- ・ 贈り主の意識の問題もある。
- ・ 選択できたほうが良い。
- ・ 流通と消費者が相談して決定できるようなシステムが良い。
- ・ 贈答品用の軽量化容器包装があると良い。
- ・ 軽量化を実践している例もある。

（参考資料：「環境配慮設計について」 P.2 中段 右、No.2-1 リデュース事例）

4. 「異物」について

- ・ リサイクルの工程で異物は分別できるが、なるべく予め除去されていたほうが望ましい。

5. 「ごみカレンダー」について

- ・ 何曜日の何日はプラの日・荒ごみの日など色分けした「ごみカレンダー」が大変便利で冷蔵庫などに貼っておき、毎日見て安心してだしています。またあの表を作成して配布していただきたい。 ※共通配布意見
- ・ 内容に変更がない場合は、予算の都合上、対応するのは難しい。
- ・ 自治会で作成し、配布しているケースもある。

6. 「分別のしやすさ」について

- ・ PET の包装がはがし難い。きちんと点線の場所を明示してほしい。 ※共通配布意見
→ シュリンクではなく、巻きつけになっているタイプもあり、剥がしやすくしている例もある。

7. 「複合材」への理解

- ・ マテリアルリサイクルのためには、単一素材が望ましいという事実がある一方で、（本日の講演で説明があった通り）複合材を利用することで容器包装の軽量化や品質保持が実現できる側面もある。
- ・ しかし、そうした情報は市民には十分に伝わっていない。（市民は知らない）
- ・ そうした事実があるのであれば、品質保持とリサイクル適性を比較した際、品質保持が優先されても良いと思う。

以上

第二分科会 2グループ：『容器包装の環境配慮設計』

1. メンバーの主な発言

- ・ マークがわかりにくい。
容器包装プラにしかプラマークがついていない。[市民]
- ・ プラ分別はメリットがあるのか？
本当にリサイクルされて地球環境保全に役に立って



いるのか？[自治体]

→ リサイクルの種類について説明[事業者]

・洗うのが手間。洗うことは正解なのか？水も資源である。[市民]

プラの種類が多すぎる → 紙の方がいいのでは？

→ ハンバーガーの包装紙がプラ補強した複合素材であることを説明 [事業者]

・プラスチックは難しい。用語も難しい。[市民]

・食品包装に関する安心安全と環境との兼ね合いについて説明 [事業者]

・バイオプラについて説明 [事業者]

・3Rの取り組みを事例紹介 [事業者]

2. プラスチックのイメージに関する自由発言キーワード

・容器包装、軽量、丈夫、便利、分別（が面倒）、リサイクル、多種類、使用後はごみ 等

→ 当グループはプラに対し比較的好意的であった

→ プラスチックの正しい知識を共有化すべく、廃棄物焼却炉設備の現状や、単一素材のメリット・デメリット（軽量化、保存安定性）等について説明・議論した。

3. まとめ

・行政及び市民から、プラスチックの正しい理解が重要であり、事業者とこのような機会を今後も望むとの意見が出た。

・お互い啓発し合い、学び合っている方向を考えていきたいということで全員の意見が一致し、有意義な会であった。

以 上

第二分科会 3グループ：『容器包装の環境配慮設計』

1. 事業者の取組紹介

(1) 事業者4社より環境配慮設計についての説明があった。

2. 意見交換

(1) 表示について

・リサイクルのマークが小さい、分かりにくい。

・成分など必要な内容を大きく表示してほしい。

(2) 容器のフタや栓で、開けにくいものがある。

(3) 分別しづらいものがある。

3. 今後の課題

市民、自治体との意見交換から環境配慮設計を進めるにあたり、以下の課題があると考えられる。

・市民の要望等が環境配慮の製品設計に十分に活かされていない。市民に容器包装のリサイクルについて、もっと知って頂き、その上で、さまざまなご意見を反映させて環境配慮設計を進めていく必要がある。

・これからの高齢化を勘案すると、「見やすい表示」やフタや栓の開けやすさなどをもっと



考慮する必要がある。

- ・ リサイクル性から、容器包装材の「プラスチック」から「紙」への移行を検討していくことも必要である。

以 上

第一回意見交換会 おわりに：

今回、市民・自治体・事業者の意見交換会は初めての試みでしたが、踏み込んだ議論をさせていただきました。市民・自治体の皆様からは、多岐にわたってご意見をいただくことが出来ました。

このような意見交換会の取組を何度かに亘って行い、全体を取り纏めてご報告してまいります。

また、各ご所属に戻り、本日の内容で新たにご理解いただいたこと等、周囲の方々へもお伝えいただければ幸いです。今後もこのような機会をいただくことで、市民・自治体との連携を深めてまいります。

